

震災後半年間で400を超える活動を実施。

震災後3日目から活動

震災後半年間の活動状況を大まかにまとめたところ、地域レクリエーション協会等のボランティア活動は、早いところでは震災後3日目から始まっており、活動の総数は400を超えることがわかりました。早くから活動を始めた地域レク協会の一つ、しちがはまレクリエーション協会（宮城県七ヶ浜町）は、一週間後から避難所での活動を始めました。きっかけは、日頃から介護予防や健康作りに取り組んでいた住民からの要請で活動が始まり、当初は「エコーミークラス症候群予防」のための体操やストレッチ、手遊び等を中心に行いました。



避難所では、玄関のスペースで活動することもありました。

力によって始まった例も少なくありません。また、活動を前向きに受け入れて

もらえる避難所が多く、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震等での経験から、遊びやレクリエーション活動によるボランティアの必要性が広く認識されていることがわかりました。

被災地に合わせた多様なプログラム

実施する活動は、被災地のニーズに合わせて多様なプログラムが行われました。例えば、震災直後は、一人あたりのスペースが狭い避難所などでか身体を動かし、健康を保とうと体操やストレッチなどを中心としたプログラムや、被災者に寄り添い、話を聞くといった活動。1、2カ月経過し、少し落ち着いてくると、活動スペースを確保して外遊びやニュースポーツなどを行うプログラム等も行われました。

避難所の場所によって活動の形も変わりました。津波による被害を受けた沿岸地域は、都市部からの距離や道路

の状況により片道2時間以上かかる場合もあります。このため、被災地の避難所等での活動は、限られた時間の中でプログラムを提供する形が多くなりました。反対に都市部に設置された避難所では、避難所の一角に遊びのコーナーを設けて、絵本の読み聞かせをしたり、クラフトをしたり、体操をしたり、一日の中で訪れる被災者に合わせてプログラムを提供するケースもありました。



東日本大震災ではレク・ボランティアの受け入れが早い時期から始まりました。

りました。

8月に福島県の子どもたちを対象に行ったキャンプでは、多くの公認指導者や課程認定校の学生がボランティアとして参加。その中には、近畿や九州からの参加もありました。宮



公認指導者をはじめ、多くの課程認定校の学生がボランティアに参加しました。

県外からもボランティアが参加

レクリエーション・ボランティアの活動には、県外からのボランティアも加わ

城県レク協会の活動にも、仙台大学や東北福祉大等の課程認定校の学生が参加しています。

また、全国福祉レク・ネットワークが福島県内の活動に、全国学校レク・ネットワークが岩手県内の活動に参加するなど、公認指導者団体からの支援もありました。その他、遠野市レク協会の活動に遠野市社会福祉協議会や地元ボランティアネットワークからのボランティアが参加するなど、一般のボランティアの参加もありました。

公益財団法人日本レクリエーション協会、都道府県レクリエーション協会はこれからも被災地への支援活動を継続していく予定です。